



平田 オリザ(ひらた・おりざ)

第1回(4月17日)

1962年、東京生まれ。劇作家、演出家、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。国際基督教大学(ICU)在学中の1983年「青年団」旗揚げ。

95年に「東京ノート」で岸田國士戯曲賞を受賞。「現代口語演劇」によって演劇理論と演出方法に大きな影響を与え、こまばアゴラ劇場を拠点に劇場システムの変革にも取り組む。ワークショップ方法論が教科書に採用されるなど、演劇教育にも取り組んでいる。主な著書は「現代口語演劇のために」「都市に祝祭はいらない」「芸術立国論」など。2009年10月、内閣官房参与。



佐々木 敦(ささき・あつし)

第2回(4月24日) 第3回(5月8日)

1964年名古屋生まれ。HEADZ主宰。BRAINZ塾長。雑誌エクス・ポ/ヒアホン編集発行人。早稲田大学教育学部、武蔵野美術大学非常勤講師。文学、映画、音楽など幅広いジャンルで批評活動を行なっている。主な著書に「文学拡張マニュアル」(青土社)「ニッポンの思想」(講談社現代新書)「『批評』とは何か? 批評家養成ギブス」(メディア総合研究所)など。



武藤 大祐(むとう・だいすけ)

第2回(4月24日) 第8回(7月17日)

1975年生まれ。ダンス批評家。群馬県立女子大学専任講師(美学、ダンス史・理論)。共著『Theater in Japan』(ドイツ、Theater der Zeit)、論考「差異の空間としてのアジア」(『舞台芸術』12号)、「反スペクタクルと無意味の狭間」(『シアターアーツ』30号)、「ポストモダンダンスについてのノート」(『plan B 通信』連載)など。『シアターアーツ』、『MOMM』(韓国)にて時評を連載中。2008年より Indonesian Dance Festival 共同キュレーター。



水牛 健太郎(みずうし・けんたろう)

第2回(4月24日) 第4回(5月22日)

1967年静岡県清水市(現静岡市)生まれ。高校卒業まで福井県で育つ。大学卒業後、新聞社勤務、米国留学(経済学修士号取得)を経て、2005年、村上春樹論が第48回群像新人文賞評論部門優秀作となり、文芸評論家としてデビュー。演劇評論は2007年から。そのほか村上龍主宰の「ジャパン・メール・メディア(JMM)」などで経済評論も手がける。2009年10月からマガジン・ワンダーランド編集長。



松井 周(まつい・しゅう)

第3回(5月8日)

1972年東京生まれ。明治学院大学社会学部卒。1996年俳優として青年団に入団。2007年「サンプル」を旗揚げ。代表作は「通過」「家族の肖像」「あの人の世界」。外部演出や小説などの活動も注目される。



多田 淳之介(ただ・じゅんのすけ)

第3回(5月8日)

1976年千葉県生まれ。日本大学芸術学部中退。2001年に「東京デスクロック」を旗揚げ。2003年からは青年団演出部に所属。青年団リンク二騎の会を共同主宰。2010年4月から埼玉県富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの芸術監督に就任。



岩井 秀人(いわい・ひでと)

第3回(5月8日)

1974年、東京都小金井市生まれ。桐朋学園大学演劇科卒。2003年「ハイバイ」旗揚げ。代表作は『ヒッキー・カンクントルネード』『おねがい放課後』『て』など。映画、舞台出演など俳優としての活動も多数。



中野 成樹(なかの・しげき)

第5回(6月5日)

1973年東京生まれ。演出家。「中野成樹+フランケンズ」主宰。もっぱら海外戯曲を取り上げ、誤意識(誤訳+意識)なる手法で、原作を尊重しながらも、

多分に余分な要素を含ませ、別の小道へも作品をたどりつかせる。好きな色は緑。既婚。好きなバンドは筋肉少女帯。09年からは有明教育芸術短期大学芸術教養学科演劇コースの専任講師にも。



小澤 英実(おざわ・えいみ)

第6回(6月19日)

東京学芸大学教育学部専任講師。アメリカ文化研究者。雑誌『舞台芸術(第二期)』などで演劇批評を行うほか、イヴ・エンズラー『ヴァギナ・モノローグス』、

国際共同制作戯曲『雌鹿』(演出:羊屋白玉)など上演戯曲の翻訳や、大学にて文芸評論の添削指導を継続的に行っている。著訳書に『現代批評理論のすべて』(新書館)、テリー・イーグルトン『反逆の群像』(青土社)、舞台批評に「破壊しに、と彼女は言うーニブローの身体的モード」(『ユリカ』)など。



手塚 夏子(てづか・なつこ)

第7回(7月3日)

ダンサー、振付家。1996年より、マイムやダンスの境界をさまよいつつ、既成のテクニックではないスタイルの試行錯誤をテーマに自作の舞台活動を続ける。2001年より自身の体を観察する『私的解剖実験シリーズ』始動。

『私的解剖実験-4』より、関わっているときの体の観察を経て、関わり方の観察へと移行し、現在に至る。体について様々な雑談をするカフェイベント「カラダカフェ」や、人のダンスの手法について思考し体で試行する「道場破り」など、自主企画のイベントを不定期に行う。

▽劇評を書くセミナーとは

演劇、ダンスを考えるための劇評実践講座。公演を見る、作・演出、振付家らの現場の声を聞く、劇評を書く、相互批評するーのワンダーランド方式で2008年から実施。遊園地再生事業団「ニュータウン入口」(宮沢章夫作・演出)、「瀕死の王」(イヨネスコ作、佐藤信演出)、燐光群「ハシムラ東郷」(坂手洋二作・演出)などを取り上げてきた。セミナーから寄稿者が次々に生まれている。

▽ワンダーランドとは(<http://www.wonderlands.jp/>)

小劇場レビューマガジンとして2004年創刊。これまでの寄稿者は約100人、掲載記事は1000本を超える。webサイトとメールマガジン版で発行。平田オリザ、関美能留、岡田利規、前田司郎らのロングインタビューも話題を呼んでいる。

